

HIS、国際線チャーター便会社「Asia Atlantic Airlines」、7月から成田・関空へ就航

HISは12日、同社などでタイに設立したチャーター便運航専門の航空会社の正式名称を「アジア・アトランティック・エアラインズ」と発表した。

7月19日に成田ーバンコク線で営業運航を開始し、同27日には関西ーバンコク線にも就航。両路線とも9月下旬まで1日1便(往復)を運航する。HISは、チャーターを積極的に利用し、繁忙期の座席不足を解消して需要の取り逃しを防ぎたい考えだ。なお、初便就航記念価格は成田・関空ーバンコク間が、片道1万円とした。

アジア・アトランティック・エアラインズの使用機材は2機のボーイング 767-300ERをリースで運用し、LCCモデルではなく、食事などのサービスのほか、ビジネスクラスも用意される。

H.I.S.は、このアジア アトランティック エアラインズから、座席を買い、ホテルなどと組み合わせて旅行商品を作っていく。なお、アジア アトランティック エアラインズは、H.I.S.が多くの出資をするものの、H.I.S.専門のチャーター便会社というわけではなく、他の旅行会社への営業活動も積極的におこなっていく方針。

トラベルビジョンによると、HISは、「世界No.1の旅行会社をめざす」目標を持っており、HIS代表取締役社長の平林朗氏は「世界的な旅行会社は航空会社を保有している」とし、グループ会社に航空会社を有することは「世界展開を考えると、必ず必要になる」点を強調したとしている。

一方、アジア アトランティック エアラインズの今後の路線展開については、タイを拠点に中国や東南アジア全域へのチャーターを実施し、グアムやハワイ、ロシアやヨーロッパなどへの展開も検討しているという。現在同社はB767型機を2機保有しているが、5年後までに20機に増やす計画だ。

(トラベルビジョン)6/12

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57886&pg=3> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57886&pg=3>)

(CAR watch)6/12

http://car.watch.impress.co.jp/docs/news/20130612_603356.html (->

http://car.watch.impress.co.jp/docs/news/20130612_603356.html)

(HIS プレスリリース)6/12

http://www.his-j.com/tyo/special/asia_atlantic_airlines.html?cid=td01 (-> [http://www.his-](http://www.his-j.com/tyo/special/asia_atlantic_airlines.html?cid=td01)

[j.com/tyo/special/asia_atlantic_airlines.html?cid=td01](http://www.his-j.com/tyo/special/asia_atlantic_airlines.html?cid=td01))

http://www.his.co.jp/material/pdf/n_sho_20130612.pdf (-> http://www.his.co.jp/material/pdf/n_sho_20130612.pdf)

HIS、スワナプーン空港で優先入国レーンを使用、一部商品利用者対象

エイチ・アイ・エス は11日、7月中旬よりタイ・バンコク・スワンナプーム国際空港にて、「H.I.S.優先入国サービス」を開始すると発表した。対象となるのはH.I.S.パッケージブランドCiao(チャオ)やバンコク行直行便航空券利用者で、パスポート情報等を事前に申請すれば、スワナプーン空港ではH.I.S.専用レーンで、パスポートの提示で入国審査が終了となる。

バンコクへの到着便が集中する時間帯には、入国手続きに要する時間が1時間におよぶこともあるため、HISのサービスを利用することが出来れば大幅な時間短縮になるという。

(HIS プレスリリース)6/11

http://www.his.co.jp/material/pdf/n_co_20130611.pdf (-> http://www.his.co.jp/material/pdf/n_co_20130611.pdf)

スターフライヤー、北九州ーグアム、チャーターフライト発表

スターフライヤーは12日、8月1日ー26日の期間、同社初の米国路線となるグアムへのチャーターフライトを実施すると発表した。旅行商品として各旅行代理店にて予約、販売を開始する。

運航便数は13往復26便、北九州を19:45に出発しグアム着は0:30。復路のグアムからは02:30発で北九州着は5:30となる。また、8月26日以降の運航について計画中だという。

(スターフライヤー プレスリリース)6/12

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130612066753.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130612066753.pdf>)

福岡空港、国際線旅客ターミナル、待合室を増設、LCCなど乗り入れ急増

福岡空港ビルディングは、国際線旅客ターミナルビルの北側に、乗客の待合施設を新たに建設する。7月に着工し、来年4月に運用開始する。鉄筋コンクリート平屋で、延べ床面積845平方メートル、総工費は2億～3億円規模。

福岡空港では、格安航空会社(LCC)など海外航空会社の乗り入れが増えており、施設拡充で、北側駐機場への乗客のアクセス向上を図る。搭乗口のほか、約250席の椅子や売店などを設ける。

因みに同空港には、海外航空会社が11日現在、9カ国・地域の18路線が就航している。

(毎日新聞)6/12

<http://mainichi.jp/select/news/20130612k0000m020018000c.html> (-> <http://mainichi.jp/select/news/20130612k0000m020018000c.html>)

FDA、丘珠空港でのテスト飛行、7月7日に実施計画

北海道新聞によると、フジドリームエアラインズが今夏に札幌市東区の丘珠空港で予定していた小型ジェット機のテスト飛行が、7月7日に行われる見通しとなった。札幌市は6月28日、テスト内容などについての市民説明会を開く。同市によると、FDAは所有するブラジル・エンブラエル社製の小型ジェット機ERJ170(76人)を使用し、乗客を乗せずに名古屋空港—丘珠空港間を1往復する予定だという。

FDAは「飛行計画を国に申請中でコメントできない」としている

(北海道新聞)6/12

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/473043.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/473043.html>)

政府、東南アジア、訪日観光客向け査証緩和

政府は11日に開催した第2回観光立国推進閣僚会議で、「アクション・プログラム」に基づき、訪日観光客向けビザの大幅な緩和を決定した。

日本・ASEAN友好協力40周年を契機に、タイ、マレーシア向けのビザは免除。また、ベトナム、フィリピン向けのビザを数次ビザ化するほか、インドネシア向け数次ビザの滞在期間を延長する。夏までに実施する計画だ。

(トラベルビジョン)6/12

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57880> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57880>)

ボーイング社、20年間で民間航空機需要2倍と予想

ボーイングは11日、今後20年間で世界の民間航空機需要が2倍に拡大するという市場予測を発表した。2013年～32年の累計で3万5千機強の需要を予測し、総額4兆8千億ドル(約461兆円)に相当する。北米や欧州の市場が縮小する一方、格安航空会社(LCC)が台頭するアジアや南米など新興国がけん引する。

ボーイングの試算では、新規の需要と退役機を差し引きすれば、20年後に世界の空を飛ぶ民間機の運航機数は現在の2倍になる見通しだ。増加分は全てナローボディ機(単通路型機)としている。

(日経)6/12

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1200Z_S3A610C1EB2000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1200Z_S3A610C1EB2000/)

(bloomberg)6/12

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7N3O6JTSEE01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7N3O6JTSEE01.html>)

仁川空港、ACI国際空港サービス評価、8年連続総合1位

イスタンブールで11日開かれた国際空港評議会(ACI)の国際空港サービス評価「ASQ」の授賞式で、仁川国際空港はアジア太平洋部門と中大型部門(2500万～4000万人規模)で最高賞を受賞した。全空港が対象の総合評価でも8年連続で「世界最高の空港」の座を守った。

1993年から毎年発表される空港サービス評価で8年連続1位を獲得したのは世界約1700の空港のなかで仁川空港のみ。

一方、ソウルの金浦空港は中型部門(1500万～2500万人規模)で3年連続1位、総合評価でも6位を記録した。

(yonhapnews)6/12

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/06/12/0200000000AJP20130612003500882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/06/12/0200000000AJP20130612003500882.HTML>)

エアアジア・フィリピン(LCC)、クラークー台湾線など4路線で減便

エアアジアのフィリピン子会社、エアアジア・フィリピンは、今月15日からクラークー～台湾便など4路線で便数を削減することを明らかにした。運航調整の一環としている。ビジネスワールドなどが伝えた。

クラーク発着の4路線で運航数を削減する。

台北路線は1日1便から週4便に変更。香港路線は週10便から1日1便、シンガポール路線は1日1便から週3便、クアラルンプール路線は週10便から同3便にそれぞれ減便する。

(NNA ASIA)6/13

<http://news.nna.jp/free/news/20130613php005A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130613php005A.html>)